

令和7年度



園だより 1月号

杉並区立下高井戸子供園

教育目標 “しあわせいっぱいの子供園”

〇もりもりそだつげんきなからだ 〇たいせつななかまとじぶん 〇かんじるころとあたま

感謝の気持ちと謙虚な姿勢

園長 原 麻弓

年の瀬を迎え、子供園では子どもたちが自分たちの生活の場である保育室やみんなで使った園庭の遊具、用具などの大掃除をしました。「ここでおままごとをして遊んだね。」「いっぱい遊んで楽しかった。」と振り返りながらする大掃除となりました。

物理的に場がきれいになる、モノが美しくなるのと同時に、年末の大掃除は、一年間を振り返る機会となります。

楽しかったことも少し悲しかったことも思い出しながら、大きくなったことやできるようになったことなど、自分自身の体や心の成長を感じてほしいと願っています。

12月6日（土）下高劇場では、各学年ならではの子どもたちの劇表現を披露しました。たくさんの保護者の方の前で一人ひとりが力を発揮できたことは、担任をはじめ学級を支える全職員にとっても嬉しいことです。

劇場後にも述べましたが、子どもたちの頑張りをたくさん言葉にしてほめましょう。子どもたちは何よりも家族の方からほめてほしいのです。

ほめられても、ほめられても、まだまだほめてほしいのが子どもです。

“ほめ”のコツは、ほめる人の感情です。「あなたのここが素敵！」のあとに、「それを見て、私がうれしくなっちゃった！！」とプラスしてみましょう。

そしてこれも保護者会で述べましたが、大切なことは、“保護者の方ご自身をたくさんほめてあげること”です。

「私、毎日頑張っている！えらい！！」

「健康でいられる私、すごい！！」

ほんの小さなことでもいいのです。ほめポイントを見つけていきましょう。

Ado というアーティストを皆さんご存じのことと思います。Adoさんの歌に『わたしに花束』というものがあります。

ありがたい言葉が
ごめんなさいの昨日が
今日の私を作ってる
おめでとうって笑顔で
悔しいなって涙で
明日はどんな私を作ろう



感謝の気持ちと謙虚な姿勢、人の喜びに共感できること、自分の気持ちに素直になること、そんな自分に花束をあげよう、隣にいるあなたにエールを贈ろうというこの歌が今の私の応援歌です。

一年の締めくくりに、ぜひご家族皆様で一年の楽しかったこと、がんばったこと、うれしかったことを思い出し、よいお年をお迎えください。

本年も下高井戸子供園の教育・保育へのご理解、ご協力をありがとうございました。

【1月の保育】

年少うさぎ組

寒さに負けず、園庭を思い切り走りながら元気に遊んでいます。2学期は、元気タイムや体操、散歩などでたくさん体を動かしたり、ままごと遊びをしたりして、学級の友達と遊ぶ楽しさを感じてきました。

1月は、氷や霜柱などの冬ならではの自然物に触れたり、遊びに使ったりしていきます。またコマや凧あげなどのお正月らしい遊びや、2学期に楽しんだ体操や鬼ごっこを楽しむ中で、みんなで一緒にする遊びの楽しさも感じられるようにしていきます。また、自分なりに何かになったつもりで動いたり踊ったりする表現遊びを楽しめるようにしていきます。一人一人のありのままの表現を受け止めながら、教師や周りの幼児と一緒にのびのびと表現することを楽しんだり、お話のイメージで動いたりすることを楽しめるようにします。

年長ぞう組

下高劇場の取組を通して、学級の目的に向かって自分の力を発揮したり、仲間と考えを出し合ったりしてやり遂げる満足感を味わいました。遊びや生活の中でも声を掛け合う姿が増え、自分たちで園生活を進めていこうとしています。

1月は、投げゴマに繰り返し挑戦したり、日本の伝統的な遊びのかるたやすごろくなどを友達と一緒に遊んだりしていきます。互いに得意なことに気付き、友達と遊び方を教え合ったり励まし合ったりし、できるようになったことを喜ぶ姿を認め、成長を支えています。

2月には音楽会も予定しています。遊びの中でいろいろな楽器に触れて音色を楽しんだり、リズムの心地よさを感じたりしながら、学級のみんなで取り組む喜びにつなげていきます。

年中くま組

12月の下高劇場では、役になりきって表現することや友達と一緒に言葉を言ったり、やり取りをしたり、一緒に歌ったりすることを楽しんできました。その後の遊びの中でも、友達に自分の思いを伝えたり、自分から友達に尋ねたりする姿が増えてきました。

1月は、コマやすごろくなど、日本の伝統的な遊びに触れる機会を計画しています。また、今まで取り組んできた鬼遊びや縄跳びなどに加え、ボール遊びなども取り入れ、寒さに負けずに体を動かしていきます。

学級で歌っている曲に合わせて楽器を鳴らしたり、遊びの中で友達と歌ったりし、楽器や歌に親しんでいきます。繰り返し楽器遊びを楽しみ、友達と演奏する心地よさや音が合わさる楽しさを感じられるようにしていきます。

